

ハミングク



No.65
2013.10.22

基本理念

本院は診療・教育・研究を遂行する大学病院としての使命を有し、また患者さんの人権を尊重した先進的医療を行うとともに、次代を担う国際的な医療人を育成する。



「霧ヶ峰高原にて」
撮影：病院長 天野 直二

主な記事

- 病院のお仕事リアル体験
～中学生職場体験学習受け入れ報告～ 2
- 信州大学病院連 今年も松本ぼんぼんに参加 3
- ボランティア懇談会 ―通過点からさらなる未来へ― 4
- 高精度放射線治療システムの導入について 5
- 夏の風物詩、夏祭り花火大会 6
- 西7階 病棟の紹介 7
- ご意見函からの声 7
- 電話番号表・編集後記 8

病院のお仕事リアル体験

～中学生職場体験学習受け入れ報告～

看護部 伊藤 寿満子



文部科学省では、学校教育においてキャリア教育を推進しています。キャリア教育とは、生徒一人ひとりが社会的・職業的に自立し、将来のキャリアを選択・決定していける人材となることを狙いとしているものです。信州大学医学部附属病院では職場体験学習を通じてこれらの能力を育むための「実務」の現場を提供しています。今年も看護部が窓口となり平成25年7月に市内3校の中学生18名の職場体験学習を受け入れました。

初日は、病院実習で気を付ける事として、挨拶（笑顔）と挨拶についてオリエンテーションをしました。また病院内においてはコミュニケーションやチームの連携が大切であることも説明しました。座学は30分だけでその後は現場に向かいます。

まず教育研修センターでは車いすの体験やシミュレーターモデルを用いて聴診器の使い方を学び、呼吸の音やお腹の音の聴取をしました。ここからは少しずつ医療者の気分になってきたようです。その後は、院内で働く様々な職種における役割と業務内容について現場で説明を受けました。プロの話聞く機会はあまりないので、皆真剣でした。特にドクターヘリの見学

は皆感激と興奮のひとつときでした。間近に見るドクターヘリは中学生の目にはかっこよかったようです。

2日目は患者さんと触れ合うリアルな現場体験です。外来患者さんの受付対応のお手伝いから、入院患者さんの清潔援助のお手伝いなど看護師と一緒に行動しました。体験を終えた学生さんから以下のような声を聞くことが出来ました。

- 2日間職場体験をさせてもらって、病院で働いている皆さんの大変さがすごくよく分かりました。私たちが具合が悪くなった時はいつでも病院に行き、診てもらっているけど、こんなにたくさんの人達がそれぞれの仕事をしているから病院ってなりたっているんだなと思いました。
- ふだんは行けないヘリコプターの所とかにも行けて、乗せてもらいうれしかったです。
- 外来も病棟も人と人とのコミュニケーションが大切だとあらためて感じました。
- 医師の方も看護師の方も患者さんにとっても親切で、通院している患者さんは、安心して来ているんだと思いました。
- この体験のおかげで、僕が外科医になるという目標が明確になったので、とても良かったです。
- 職場体験を通して、働くことの大切さ、楽しさ、厳しさを学ぶことができたので、良かったです。
- 働いている人たちが、とてもかっこ良かったです。
- いろいろな体験をしてとっても楽しかった。

緊張や不安、戸惑いを感じながらも2日間の実習で生徒一人ひとりが、「働くとは何か」について真剣に考えるきっかけとなり、働くことの素晴らしさ、喜び、厳しさも実感できたようです。

今後も地域の皆様のお役に立てるよう、各部門と協力し頑張ってまいります。



信州大学病院連 今年も松本ぼんぼんに参加

信州大学病院連 副連長
平野 浩志



長野県民、松本市民の医療の一端を担う地域の病院として、今年も市民の皆さんとのふれあいを大切にしようとして、当院の事務系職員が核となり看護師、医師、薬剤師、臨床検査技師、リハビリの理学療法士、作業療法士、管理栄養師、診療放射線技師らを集め総勢190名余りが8月3日（土）に行われた松本市恒例、「松本ぼんぼん」に踊り手として参加し、観客の方々と感動を共有しました。

今年の松本ぼんぼん参加314連、26,700人の0.7%に

● 当たる大所帯の信州大学病院連に、赤いハッピーで集
● まった職員たちは、開始早々より日々の診療から解放
● され、ここぞとばかり全員のテンションが一気に盛り
● 上がり、ラストステージまで病院長（連長）の持つ緑
● の提灯を先頭に城の町松本市内を精いっぱい踊り続け
● て、全員が心にゆとりを取り戻せました。

● 翌日の信濃毎日新聞にちょうど我々の信州大学病院
● 連が、最高のパフォーマンスで踊っている写真が、「夏
● 満喫」という見出しで掲載されました。



ボランティア懇談会 — 通過点からさらなる未来へ —

信大病院ボランティアの方々へ、日々の感謝の気持ちを伝えるボランティア懇談会を去る9月19日（木）に行いました。ベテランの方から新しい方まで、多くのボランティアさんが会場に結集してくださいました。病院長と直接お話しすることが出来る貴重な時間を共有し、病院に対するボランティアさんの思い、またボランティアさんに対する病院の姿勢を、多くを語らずとも互いに感じ合い、笑顔あふれる和やかな時間を過ごすことが出来ました。

当院では18年目を数えるボランティア活動ですが、年々活動員数が増加し、それに伴って活動内容も多岐にわたってきています。

〈やれる方がやれる日に、やれる事をやる。〉ということをもっとに時を重ね、少しずつ組織が熟成に向かって成長している中で、のびのびと楽しみながら活動されるボランティアさんの存在は、すでに病院と患者さんにとって、なくてはならないものとなりました。

これは当院のみならず、全国の国立大学附属病院も同様です。ボランティア活動に関する全国アンケート結果によれば、回答のあった33大学中すべての病院でボランティア活動を導入し、当院とほぼ同様の活動内容を展開しています。ただしボランティア活動が組織



化されていない病院も半数あり、さらに人数が1人という病院もありました。ちなみに当院では発足とともに組織化され、病院長を委員長とするボランティア活動運営委員会があります。また当院のボランティア活動員数は107人でアンケート中の6位に位置し、受け入れ環境もすべてにおいて上位にありました。

このような誇らしい結果を踏まえ、18年という通過点からさらなる未来へ、病院の組織もボランティアさん自身も進化を遂げていこうと、日々積み上がっていく実績と、努力することを止めないボランティアさん達の極上の笑顔の先に感じ取ることが出来ます。



高精度放射線治療システムの導入について

放射線科 小岩井 慶一郎

放射線治療はがんに対する治療のひとつです。がん患者さんの増加に伴い、昨今この治療が注目されています。コンピューターによる制御技術の進歩により、この治療の精度が以前とは比べ物にならないほど向上したことも注目を浴びている一因となっています。この度当院では、高精度放射線治療が可能となる機器を導入いたしました。現在これらを用いた新たな放射線治療システムの確立を進めています。ここでは、導入された代表的な機器をご紹介します。

1. リニアック (バリアン社製 Clinac iX)

実際に放射線治療を行う装置です。従来の装置との大きな違いは、画像誘導装置がついていることです。これはリニアックで治療を行う直前にCTあるいはレントゲン写真を撮る装置であり、この画像を解析する事によってがん病巣により正確に放射線を当てる事が出来ます（画像誘導放射線治療）。

2. CT (GE社製 Optima CT580W)

放射線治療を行うためには詳細な計画を立てる必要があります。このためには患者さんの体のデータを取得する必要がありますが、このデータを取るための専用CTが本機です。通常のCTよりも穴が大きく設計されており、放射線治療を行う体位での撮像ができるようになっています。また、呼吸によるがん病巣の移動

を正確に捉えることのできる、四次元CTの撮像が可能です。

3. 治療計画装置 (バリアン社製 Eclipse、エレクトラ社製 Xio, Monaco)

CTで取得した患者さんのデータを解析し、治療の方法をシミュレーションする装置です。がん病巣への放射線量の集中と正常臓器への放射線量の低減を同時に可能とする、強度変調放射線治療を行うためには高性能の治療計画装置が必要ですが、このたび従来の計画装置をアップグレードすることにより、強度変調放射線治療の計画機能が高められました。

4. 高性能画像誘導装置 (ブレインラボ社製 EacTrac X-ray)

画像誘導放射線治療をより効率的かつ正確に行うことを可能にする装置です。CTは撮れませんが、2方向から撮像されたレントゲン画像を自動的に解析し、1mm以下の精度で患者さんの位置を自動補正します。これによりいわゆるピンポイント照射を高い精度で行う事が出来るようになります。

今後これらのシステムを駆使してより良い放射線治療が行えるよう、スタッフ一同技術の研鑽に励みたいと考えております。



◀ 1. リニアック
(バリアン社製 Clinac iX)



4. 高性能画像誘導装置 ▶
(ブレインラボ社製 EacTrac X-ray)
床のホームベースの様なところからX線が出て、天井から釣り下がっている受像機で撮影をする仕組みとなっている。



「みてみて！浴衣着たよ！」「花火はいつやるの？」
花火大会が待ち遠しい、子どもたちの会話です。今年もこの季節がやってきました。

日々治療に励み、我慢していることの多い小児科の子どもたちに少しでも楽しい記憶と思い出が残るように。そんな思いを込めながら病棟では年間を通してさまざまな行事・イベントを開催しています。

7月26日、子どもたちにとって夏の最大イベントである花火大会が開催されました。開催の一週間前から子どもたちが描いてくれた個性豊かなポスターが東4階病棟の壁面に貼り出されると、ワクワク気分が一気に盛り上がります。数日前から天気予報を気にしながらみんなで祈るような気持ちで花火大会の日を待ちました。

当日は幸い天候にも恵まれ、予定通りに18:30から花火大会が始まりました。

手持ち花火を何本も持って楽しむ子や、久



しぶりに再会する兄弟や家族と花火を楽しむ子もいます。色とりどりの浴衣や甚平姿の子どもたちに加え、婦人科の患者さんや、他病棟の患者さん、大勢のスタッフで会場は大賑わいとなりました。

お楽しみは、花火だけではなくありません。夏祭り定番のヨーヨー釣りや、輪投げ、くじ引きにも列ができて、もらった景品を両手に抱えた子どもたちの笑顔が印象的でした。

あたりが暗くなってくると、噴き出し花火や打ち上げ花火が始まり、病棟の上の階まで花火の音と光が届きます。打ち上げられる花火を見守りながら、多くの患者さんに夏の風物詩を味わってほしいと思いました。

イベントも佳境を迎え、「ナイアガラ花火」がラストを演出します。いかに短い時間で着火を終えるかで見栄えが変わってくるナイアガラ。今年は人海戦術を駆使して8人の勇士（小児科の先生方）が点火に挑みました。その甲斐あってか、今年はひととき明るく長く楽しめたように思いました。

今年の花火大会も、皆さまのご協力により大盛況のうちに終わることができました。この場をお借りして、参加して下さった方々、関係された全ての皆様に感謝申し上げます。

西7階 病棟の紹介

西7階病棟 看護師長 亀谷 博美



西7階病棟は、脳神経内科、リウマチ・膠原病内科、脳神経外科の患者さんが入院されています。脳梗塞や脳炎、リウマチ、膠原病などの方や、難病といわれる病気をお持ちの患者さんもおられます。ご自分の手足や体を思うように動かせない方も多く、検査や治療を進めるとともに、入院生活全般にわたって支援しています。

移動が困難の方は、車いすや歩行器などを使って移動します。移動した先のトイレやベッドに移る際も、患者さんに合った方法で行います。

入浴ではリフトを使ってベッドから直接浴槽に入れる特殊浴槽を使用しています。体を動かせない患者さんでもゆっくりお湯に浸かることができます。

食事を自分で摂れない方は看護師の介助で食事を摂っていただいています。病気により飲み込みがうまくできない方にはとろみ剤の使用や、食事形態の変

更、カロリーの高い食品の工夫など、摂食・嚥下障害看護認定看護師や栄養士、言語聴覚士と相談しながら食事の摂り方について検討しています。

退院後も病気をもちながら自宅で生活をされる方も多くおられます。患者さん、ご家族とともにソーシャルワーカーや地域のケアマネージャー、訪問看護師にも入っていただいて、退院後の生活支援について検討し、患者さんが安心して退院できる体制を整えるようにしています。

院内の様々な職種のスタッフと協力して患者さんの治療をすすめるとともに、その方の生活を支えていけるようこれからも努力していきたいと考えています。



ご意見函からの 声

Q 無料で水が飲めるサービスを実施すべきです。



A 貴重なご意見をありがとうございます。院内でお水が飲めるサービスにつきましては、水質を衛生的に管理するといった点で難しい面がございますため、大変申し訳ございませんが、現在は備えておりません。院内でお薬を飲まれるなど、お水が必要となった場合は、タリーズコーヒーにて無料でお水を提供できますのでお声掛けください。

前回のご意見について、訂正とお詫び

ハミングNo.64号で掲載いたしました特定疾患医療受給者証の申し込みについて、「電話でお受けすることができます。」を「郵送でお受けすることができます。」に訂正させていただきます。ご迷惑をおかけいたしました。

電話番号表 (市外局番 0263) 代表番号 : 35-4600

【診療科外来】

南1階	小児科	37-2776	南3階	眼科	37-2789	リハビリテーション部(理学療法)	37-2836
	遺伝子診療部			耳鼻いんこう科	37-2791	リハビリテーション部(作業療法)	37-3399
	先端心臓血管病センター			産科婦人科	37-2793		
	循環器内科			皮膚科	37-2778	通院治療室	37-2552
	整形外科			消化器外科		医療福祉支援センター	37-3370
脳神経外科	移植外科	37-2781	高度救命救急センター	37-2222			
南2階	呼吸器・感染症内科	37-2768	北2階		小児外科	37-2783	胸痛センター
	消化器内科			呼吸器外科	37-2831	内視鏡センター	
	血液内科			乳腺・内分泌外科	37-2846	外来予約センター	37-3500
	腎臓内科			麻酔科蘇生科	37-2787	臨床試験センター	37-3389
	脳神経内科			形成外科	37-3381	移植医療センター	37-2930
リウマチ・膠原病内科	37-2773	北3階	精神科	37-2796			
糖尿病・内分泌代謝内科			子どものこころ診療部				
内科総合外来			泌尿器科				
放射線科			特殊歯科・口腔外科				

【医事課】

収 入 係	37-2763
入 院 係	37-2759
外 来 係	37-2757
医療福祉係(診断書)	37-2762

【病棟スタッフステーション】

西 病 棟		階	東 病 棟	
【先端心臓血管病センター】				
循環器内科	37-2777	8階	糖尿病・内分泌代謝内科	37-2769
心臓血管外科			乳腺・内分泌外科	
脳神経内科、脳神経外科	37-2774	7階	消化器内科、血液内科	37-2771
リウマチ・膠原病内科			腎臓内科	
皮膚科	37-2788	6階	【呼吸器センター】	
泌尿器科			呼吸器・感染症内科	37-2784
消化器外科、消化器内科	37-2782	5階	呼吸器外科	
移植外科、小児外科			眼科、脳神経外科	37-2790
産科婦人科	37-2772	4階	麻酔科蘇生科	
新生児科(NICU・GCU)			小児科	37-2794
精神科	37-2775	3階	婦人科	
子どものこころ診療部			整形外科	37-2786
放射線科、消化器外科、移植外科	37-2780	2階	耳鼻いんこう科	37-2792
小児外科、特殊歯科・口腔外科、RI			形成外科	
信州がんセンター、救急科				



☆相談窓口☆

受付時間：月～金（祝除く）
9時～16時

くすりの相談室	37-3013	地域医療連携支援室	37-3370
総合医療相談室	37-3370	難病相談支援センター	34-6587
がん相談	37-3045	難聴児支援センター	34-6588
セカンドオピニオン外来	37-3111	肝疾患診療相談センター	37-2922

編集後記

集中豪雨や竜巻、台風などの自然災害が日本列島を襲いましたが、幸い当地には大きな被害をもたらすことなく夏が終わったように思います。

さて、今号は各部署のご紹介のほかに、「お仕事リアル体験」、「松本ぼんぼん」等の地域社会とのふれあいについてもご紹介しました。秋風の吹く時季に夏の話題が中心になりましたが、信大病院は様々なかたちで皆様方と「絆」を深めていこうとしていることをご理解いただけたらと思います。(薬剤部 伊藤 充)

あなたの自慢の写真で「ハミング」の表紙を飾りませんか？ 写真を募集しております！

お名前・写真のタイトルをご記入の上、
ctc@shinshu-u.ac.jp へお送りください。
写真は2MB以上5MB未満のjpgデータ

【お問合せ・応募宛先】

信州大学医学部附属病院 総務課 卒後臨床研修係
TEL : 0263-37-3050

※応募はメールのみ受付